

3.4 陸域調査結果

陸域調査は、図 3.4-1 に示す 6 海域に対応する陸域を対象として実施した。なお、平良川河口、漢那中港川河口、大度海岸、宮良川河口、白保海域については、重点監視海域調査と重複するため、4.4 章において扱った。

陸域調査は、対応する陸域区分全体を対象とするのではなく、対象海域に流出する主な河川・排水路の周辺を対象として実施した。なお、河川における堰や砂防ダム等の人工構造物についても情報を収集し、位置等を把握した。

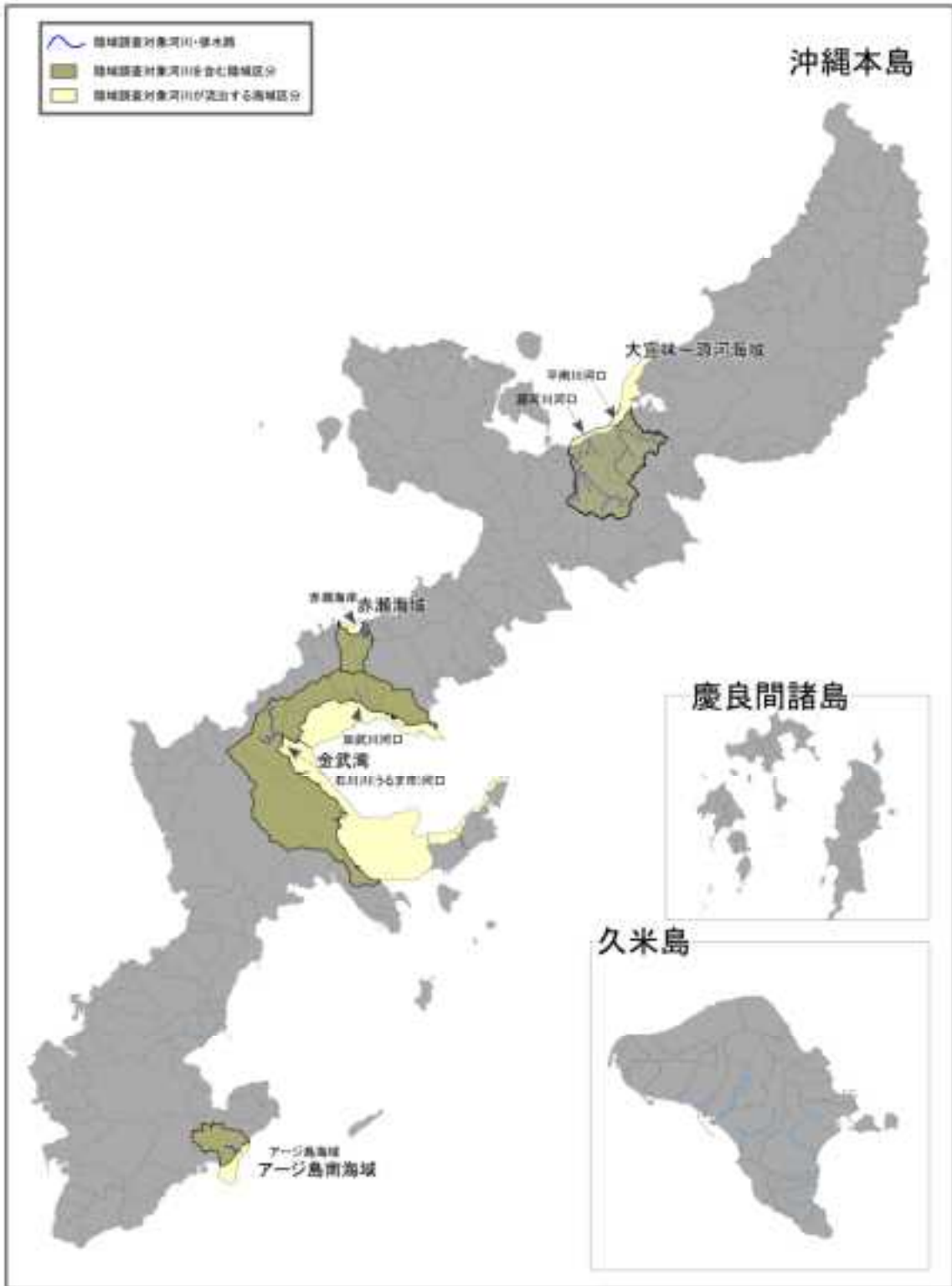


図 3.4-1 陸域調査対象位置図 (定点観測調査)

13 平南川河口

流域内状況

本流域は、平南川を主とする流域であり、沖縄本島北部の大宜味村に位置する。
河口近くの北側支川(アザカ川)と南側支川の合流部には、ラバー堰(①)が存在する。
中流域から上流域付近には、農地が広がっている(②)。

流域位置図



流域図



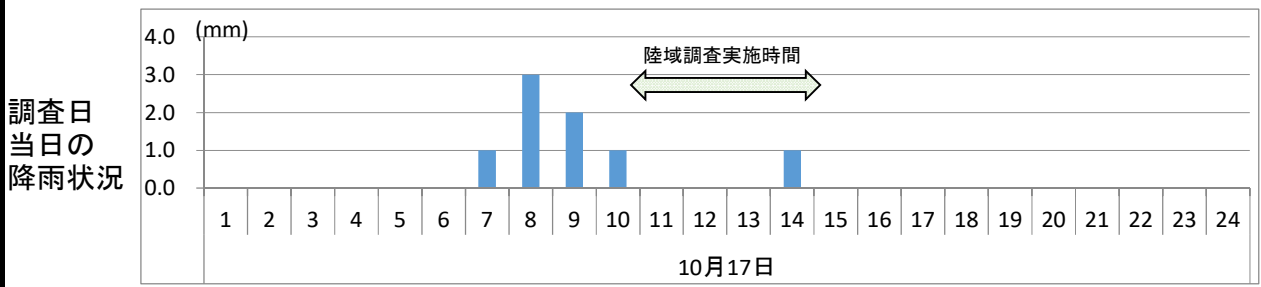
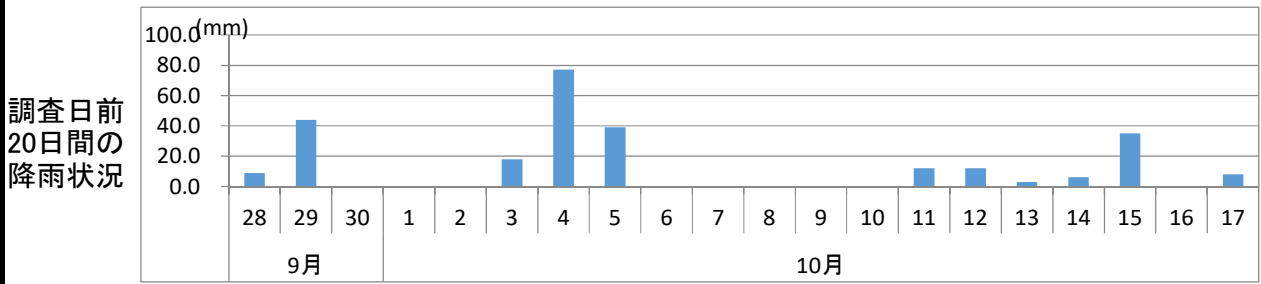
①ラバー堰

* 衛星写真の撮影日は平成27年1月5日であり、調査時の状況、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

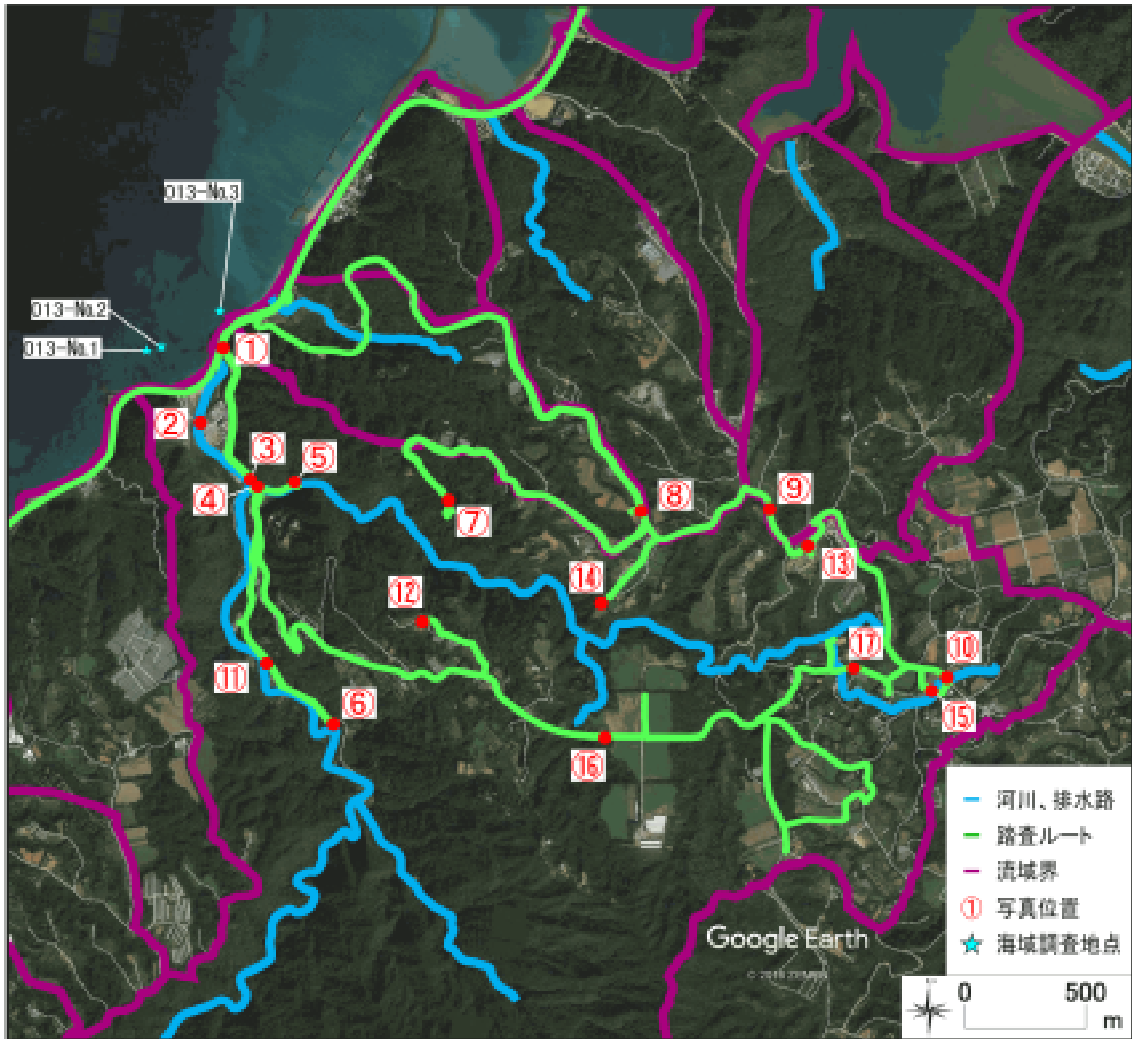
13 平南川河口

第1回調査(平成30年10月17日実施)

降雨状況 大保ダム



調査図



* 衛星写真の撮影日は、平成27年1月5日であるため、本調査日平成30年10月17日とは異なり、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

13 平南川河口 第1回調査(平成30年10月17日実施)

調査日には降雨量が8mmであったため 降雨後 として調査実施

流出情報等

(1)河口、河川

- ① 河口域において、濁りは確認されなかった。
- ② 河川下流域において、濁りは確認されなかった。
- ③ 東側支川と南側支川の合流地点において、濁りは確認されなかった。
- ④ 東側支川と南側支川の合流地点上流にあるアザカ滝と本川の合流地点において、濁りが確認された。採水を行ったところ、その濁度は2.3(度)であった。
- ⑤ 東側支川と南側支川の合流地点上流にあるアザカ滝において、若干の濁りが確認された。採水を行ったところ、その濁度は0.7(度)であった。
- ⑥ 南側支川中流域において、濁りは確認されなかった。

(2)農地

- ⑦ 流域内中央付近の果樹園の斜面において、裸地が目立っており、さらなる降雨時には谷へ赤土等流出の可能性が高いと考えられる。
- ⑧ 流域内中央付近において、農地から道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑨ 流域内東側において、農地から道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑩ 流域内東側において、農地から側溝や道路へ赤土等の流出が確認された。

(3)その他(造成地や工事など)

- ⑪ 流域内西側において、土砂崩れ箇所から道路への赤土等の流出が確認された。河川への流出はないと考えられる。
- ⑫ 流域内中央付近において、30×30m程度の造成地が確認された。今回流出はなかった。
- ⑬ 流域内東側の畜舎において、法面には裸地が目立っており、さらなる降雨時には道路へ赤土等の流出可能性がある。

流出防止対策

(1)農地

- ⑭ 流域内中央付近の農地において、雑草によるグリーンベルトが確認された。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑮ 流域内東側において、沈砂池が確認された。滞水もなく赤土等の流出はなかったものの、沈砂池内には土砂がかなり堆積しているようであり、沈砂池の機能保持のため浚渫等が必要と考えられる。

過年度確認地点との比較

流出情報

(1)農地

- ⑦ 昨年度と比べ、造成地は果樹園になっており、それにともなって植栽が確認されたが、裸地の状態にほとんど変化はなく、依然として赤土等の流出の可能性は高いと考えられる。
- ⑧ 昨年度と比べ変化はなく、農地から道路へ赤土等が流出やその流出痕が確認された。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑫ 昨年度と比べ変化はなく、造成地には一部裸地が目立ち、赤土等流出の可能性が考えられた。
- ⑯ 昨年度と比べ、造成地は草地となっており、裸地がなくなったことで、今後この地点から赤土等の流出はないと考えられる。
- ⑰ 昨年度と比べ、造成工事は完了しており、裸地がなくなったことで、今後この地点から赤土等の流出はないと考えられる。

流出防止対策

(1)農地

- ⑭ 昨年度と比べ、農地から赤土等の流出は確認されず、外周にグリーンベルト状に草本を残していた。

13 平南川河口 第1回調査(平成30年10月17日実施)

調査日には降雨量が8mmであったため 降雨後 として調査実施

		
① 河口域の状況 (濁りなし)	② 河口下流域の状況 (濁りなし)	③ 東側支川と南側支川の合流地点の状況(濁りなし)
		
④ アザカ滝付近の状況 (濁り有り)	④ 採水の状況 (濁度2.3(度))	⑤ アザカ滝の状況 (濁り有り)
		
⑤ 採水の状況 (濁度0.7(度))	⑥ 南側支川中流域の状況 (濁りなし)	⑦ 果樹園斜面から谷底への赤土等の流出状況
		
⑦ 果樹園斜面から谷底への赤土等の流出状況	⑦ 昨年度の状況	⑧ 農地から道路への赤土等の流出状況
		
⑧ 昨年度の状況	⑧ 昨年度の状況	⑨ 農地から道路への赤土等の流出状況

13 平南川河口 第1回調査(平成30年10月17日実施)

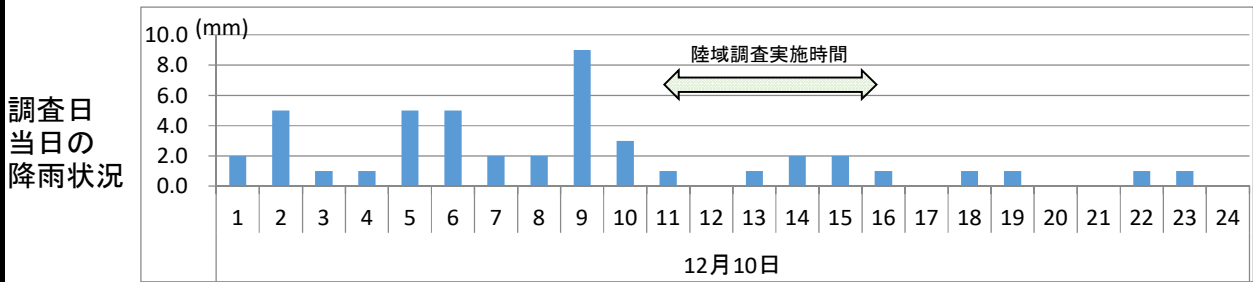
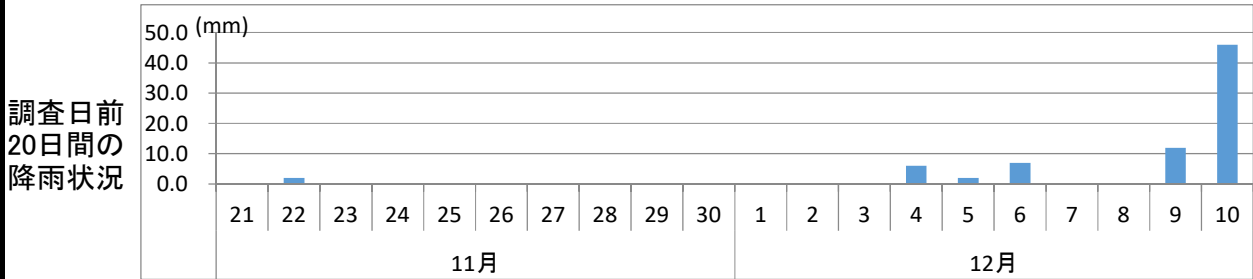
調査日には降雨量が8mmであったため 降雨後 として調査実施

		
⑩ 農地から側溝や道路への赤土等の流出状況	⑪ 土砂崩れの状況	⑫ 造成地の状況
		
⑬ 昨年度の状況	⑬ 畜舎の裸地法面から道路へ赤土等の流出状況	⑭ グリーンベルトによる赤土等流出防止対策
		
⑭ 昨年度の状況	⑮ 沈砂池の状況	⑮ 昨年度の状況
		
⑯ 造成地の状況	⑯ 昨年度の状況	⑰ 住宅造成工事の完了後の状況
		
⑰ 昨年度の状況		

13 平南川河口

第2回調査(平成30年12月10日実施)

降雨状況 大保ダム



調査図



* 衛星写真の撮影日は、平成27年1月5日であるため、本調査日平成30年12月10日とは異なり、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

13 平南川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が46mmであったため 降雨時 として調査実施

流出情報等

(1)河口、河川

- ① 河口域は閉塞しており海域への流出は確認されなかった。
- ② 河川下流域において、濁りが確認され、その濁度は0.6(度)であった。採水した水には濁りはほとんどなく、これは河口閉塞により、攪拌されずに濁りが底層に沈殿しているためと考えられる。
- ③ 東側支川と南側支川の合流地点において、水かさが高く、ラバー堰は沈んでいた。濁りはアガサ滝側(写真向かって左)から強く出ており、濁度は31.2(度)であった。
- ④ 東側支川とアザカ滝の合流地点において、濁りが確認され、その濁度は66.4(度)であった。
- ⑤ 東側支川にあるアザカ滝において、濁りが確認され、その濁度は129.5(度)であった。
- ⑥ 南側支川中流域において、若干の濁りが確認され、その濁度は3.3(度)であった。下流域の濁りは、東側支川(アザカ滝含)の上流にある農地等が主な原因と考えられる。

(2)農地

- ⑦ 流域内中央付近において、果樹園の斜面から谷底へ赤土等の流出が確認された。
- ⑧ 流域内中央付近において、農地から道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑨ 流域内東側において、農地から道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑩ 流域内東側において、農地から側溝や道路へ赤土等の流出が確認された。

(3)その他(造成地や工事など)

- ⑪ 流域内西側において、土砂崩れ箇所から道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑫ 流域内南側において、「大宜味村草地造成工事」が確認された。規模は62,967㎡であり、赤土等流出防止条例に係わる表示が確認された。
- ⑬ 流域内中央付近において、道路脇の盛土から道路への赤土等の流出が確認された。
- ⑭ 流域内東側において、畜舎の法面には裸地が目立ち、また道路へ赤土等の流出が確認された。

流出防止対策

(1)農地

- ⑮ 流域内中央付近の農地において、グリーンベルト状に草本を残している状態が確認された。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑯ 流域内東側において、沈砂池が確認された。排水溝側から少量の濁りが確認され、その濁度は5.3(度)であった。沈砂池内部は草木に覆われており、濁りの状況は確認できなかったが、沈砂池内には土砂がかなり堆積しているようであり、沈砂池の機能保持のため浚渫等が必要と考えられる。

第1回確認地点との比較

流出情報

(1)農地

- ⑦,⑧, 前回と比べ変化はなく、果樹園等の農地から道路や側溝等へ赤土等が流出していた。
- ⑨,⑩
- ⑰ 前回確認された造成地は農地として利用されており、周辺は広く草本に覆われており、今後この地点から赤土等が流出する可能性は低いと考えられる。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑪ 前回と比べて変化はなく、土砂崩れ箇所から道路へ赤土等が流出していた。
- ⑭ 前回と比べ、畜舎の法面には雑草が生えた程度であり、依然として裸地が目立っていた。

流出防止対策

(1)農地

- ⑮ 前回と比べ変化はなく、農地の外周にグリーンベルト状に草本を残していた。


13 平南川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が46mmであったため 降雨時 として調査実施

		
<p>① 河口域の状況 (閉塞のため流出なし)</p>	<p>② 河口下流域の状況 (濁り有り)</p>	<p>② 採水の状況 (濁度0.6(度))</p>
		
<p>③ 東側支川と南側支川の合流地点の状況(濁り有り)</p>	<p>③ 採水の状況 (濁度31.2(度))</p>	<p>④ アザカ滝付近の状況 (濁り有り)</p>
		
<p>④ 採水の状況 (濁度66.4(度))</p>	<p>⑤ アザカ滝の状況 (濁り有り)</p>	<p>⑤ 採水の状況 (濁度129.5(度))</p>
		
<p>⑥ 南側支川中流域の状況 (濁り有り)</p>	<p>⑥ 採水の状況 (濁度3.3(度))</p>	<p>⑦ 果樹園斜面から谷底への赤土等の流出状況</p>
		
<p>⑦ 果樹園斜面から谷底への赤土等の流出状況</p>	<p>⑦ 前回の状況</p>	<p>⑦ 前回の状況</p>

13 平南川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が46mmであったため 降雨時 として調査実施

		
⑧ 農地から道路への赤土等の流出状況	⑧ 前回の状況	⑨ 農地から道路への赤土等の流出状況
		
⑨ 農地から道路への赤土等の流出状況	⑨ 前回の状況	⑩ 農地から側溝や道路への赤土等の流出状況
		
⑩ 農地から側溝や道路への赤土等の流出状況	⑩ 前回の状況	⑪ 土砂崩れの状況
		
⑪ 土砂崩れの状況	⑪ 前回の状況	⑫ 赤土等流出防止条例に係わる表示
		
⑫ 工事現場の状況	⑬ 盛土から道路への赤土等の流出状況	⑭ 畜舎の裸地法面から道路へ赤土等の流出状況

13 平南川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が46mmであったため 降雨時 として調査実施

		
⑭ 畜舎の裸地法面から道路へ赤土等の流出状況	⑭ 前回の状況	⑮ グリーンベルトによる赤土等流出防止対策
		
⑮ 前回の状況	⑯ 沈砂池の状況	⑯ 沈砂池出口の状況 (オーバーフロー有り)
		
⑯ 採水の状況 (濁度5.3(度))	⑰ 農地の状況 (流出なし)	⑰ 前回の状況 (造成地として記載)

35 源河川河口

流域内状況

本流域は、源河川を主とする流域であり、沖縄本島北部の名護市に位置する。中流域は、土地改良事業により整備された農地となっており(①)、サトウキビが主として栽培されている。また、流域内南側には山地が広がっており、ここからの赤土等の流出の可能性は低いと考えられる(②)。

流域位置図



流域図

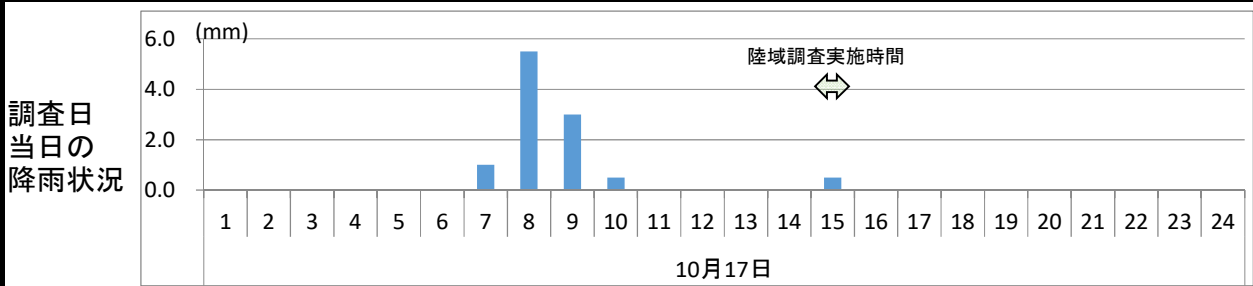
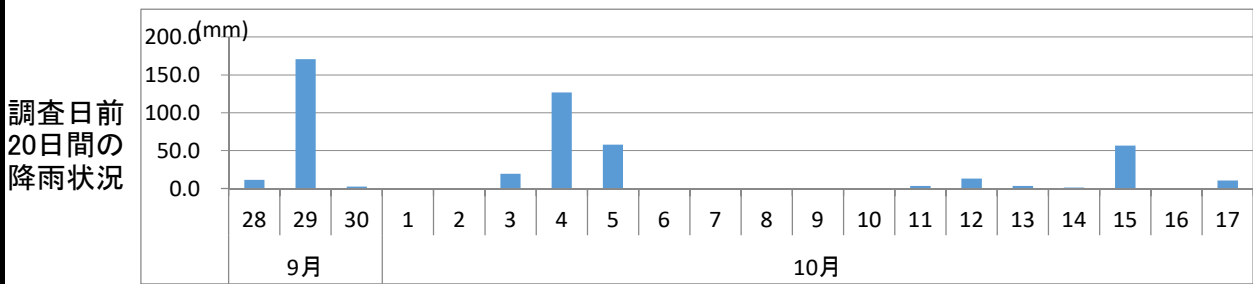


* 衛星写真の撮影日は平成27年1月5日であり、調査時の状況、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

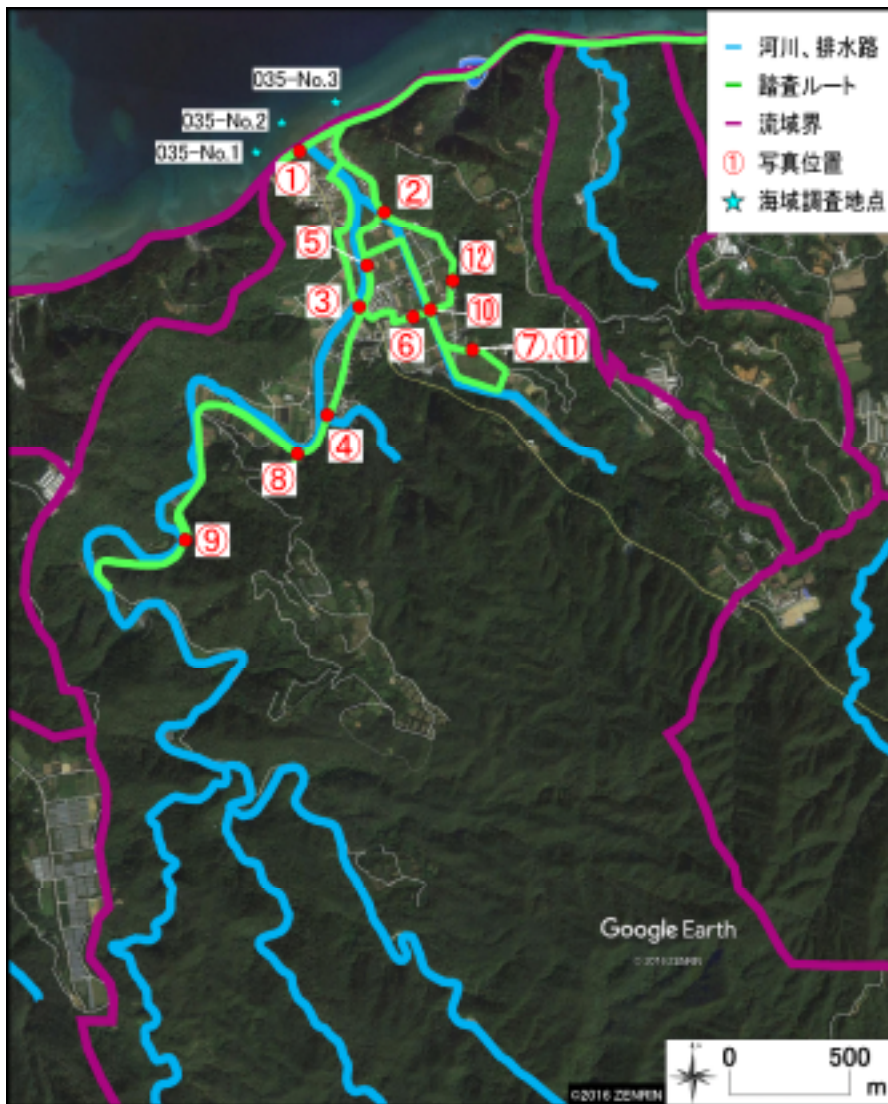
35 源河川河口

第1回調査(平成30年10月17日実施)

降雨状況 名護観測所



調査図



* 衛星写真の撮影日は、平成27年1月5日であるため、本調査日平成30年10月17日とは異なり、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

35 源河川河口 第1回調査(平成30年10月17日実施)

調査日には降雨量が10.5mmであったため 降雨後 として調査実施

流出情報等

(1)河口域、河川

- ① 河口域において、濁りは確認されなかった。
- ② 東側支川下流域において、濁りは確認されなかった。
- ③,④ 西側支川下流域において、濁りは確認されなかった。

(2)農地

- ⑤ 流域内北側のビニルハウス周辺において、裸地が目立っており、強い降雨時には側溝へ赤土等流出の可能性が高いと考えられる。
- ⑥ 東側河川中流域において、サトウキビ畑から道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑦ 東側河川中流域において、農地から側溝や道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑧ 西側支川下流域において、サトウキビ畑から道路へ赤土等の流出が確認された。

(3)その他(造成地や工事など)

- ⑨ 流域内西側において、路肩崩壊箇所が確認された。一部裸地があるが、現在河川への流出はないと考えられる。

流出防止対策等

(1)農地

- ⑩ 東側河川中流域の裸地において、構造物や植栽による赤土等の流出防止対策が確認された。しかし、一部道路へ赤土等が流出していた。
- ⑪ 東側河川中流域の水路脇において、草本によるグリーンベルトが確認された。

過年度確認地点との比較

流出情報等

(1)農地

- ⑤ 昨年度と比べ、ビニルハウス横の裸地が目立つようになり、赤土等の流出の可能性は増加した。
- ⑧ 昨年度と比べ変化はなく、サトウキビ畑から道路へ赤土等が流出していた。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑫ 昨年度から引き続き、太陽光パネル設置地点から赤土等の流出は確認されなかった。目立っていた裸地はコンクリートにより舗装され、以後流出する可能性はないと考えられる。

流出防止対策等

(1)農地

- ⑩ 昨年度と比べ、道路へ少量の赤土等が流出していた。

35 源河川河口 第1回調査(平成30年10月17日実施)

調査日には降雨量が10.5mmであったため 降雨後 として調査実施

		
① 河口域の状況 (濁りなし)	① 河口域の状況 (濁りなし)	② 東側下流域の状況 (濁りなし)
		
③ 西側支川下流域の状況 (濁りなし)	④ 西側支川下流域の状況 (濁りなし)	⑤ 赤土等の流出可能性のある ビニルハウス周辺の状況
		
⑤ 昨年度の状況	⑥ サトウキビ畑から道路への 赤土等の流出状況	⑦ 農地から側溝や道路への 赤土等の流出状況
		
⑧ サトウキビ畑から道路へ赤 土等の流出状況	⑧ 昨年度の状況	⑨ 路肩崩壊箇所の状況
		
⑨ 路肩崩壊箇所の状況	⑨ 路肩崩壊箇所の状況	⑩ 構造物や植栽による赤土 等の流出防止対策

35 源河川河口 第1回調査(平成30年10月17日実施)

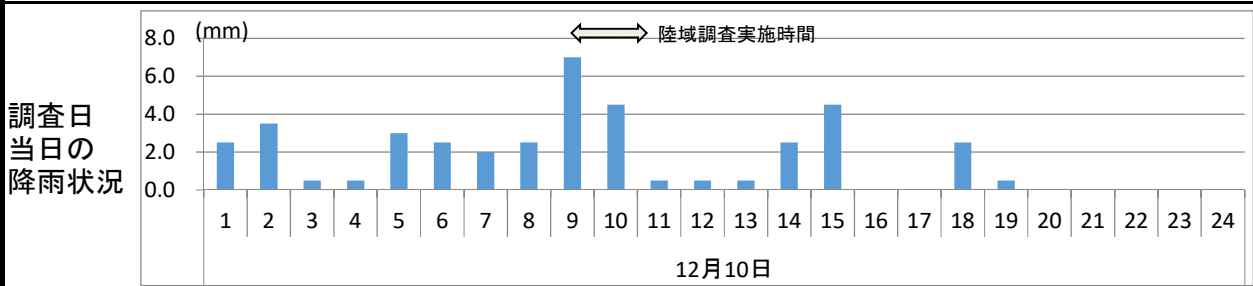
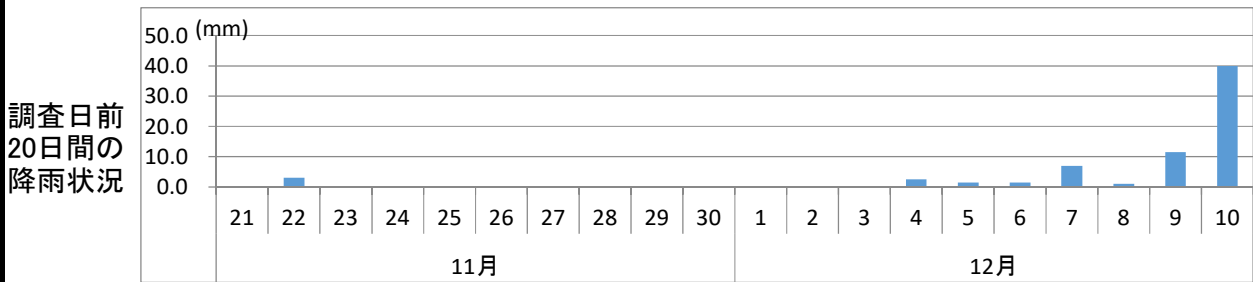
調査日には降雨量が10.5mmであったため 降雨後 として調査実施

		
<p>⑩ 昨年度の状況</p>	<p>⑪ 草本によるグリーンベルトの状況</p>	<p>⑫ 太陽光パネル設置地点(流出なし)</p>
		
<p>⑫ 昨年度の状況(赤土等流出なし、流出可能性有)</p>		

35 源河川河口

第2回調査(平成30年12月10日実施)

降雨状況 名護観測所



調査図



* 衛星写真の撮影日は、平成27年1月5日であるため、本調査日平成30年12月10日とは異なり、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

35 源河川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が40mmであったため 降雨時 として調査実施

流出情報等

(1)河口域、河川

- ① 河口域において、わずかな濁りが確認され、その濁度は0.6(度)であった。
- ② 東側支川下流域において、濁りが確認され、その濁度は8.8(度)であった。
- ③ 東側河川中流域において、濁りが確認され、その濁度は22.9(度)であった。
- ④ 西側支川下流域において、若干の濁りが確認され、その濁度は1.5(度)であった。
- ⑤ 西側支川下流域において、若干の濁りが確認され、その濁度は2.4(度)であった。
- ⑥ 西側支川中流域において、若干の濁りが確認され、その濁度は3.9(度)であった。

(2)農地

- ⑦ 流域内北側のビニルハウス周辺において、直接流出状況は確認されなかったが、裸地が残り、側溝と隣合わせであるため、降雨の度に側溝へ少量ずつ流出している可能性があると考えられ
- ⑧ 東側河川中流域において、サトウキビ畑から道路へ赤土等の若干の流出が確認された。
- ⑨ 東側河川中流域において、サトウキビ畑や農地から側溝や道路へ赤土等の流出が確認された。
- ⑩ 西側支川下流域において、サトウキビ畑から道路へ赤土等の流出が確認された。

(3)その他(造成地や工事など)

- ⑪ 流域内西側において、路肩崩壊箇所が確認された。一部裸地があるが、河川への流出はないと考えられる。

流出防止対策等

(1)農地

- ⑫ 東側河川中流域の裸地において、構造物や植栽による赤土等の流出防止対策が確認された。
- ⑬ 東側河川中流域の農地において、草本によるグリーンベルトが確認された。

第1回確認地点との比較

流出情報等

(1)農地

- ⑦ 前回と比べ、ビニルハウス周辺の裸地には草本が覆っており、赤土等の流出の可能性は減少した。
- ⑧,⑨,⑩ 前回と比べ変化はなく、サトウキビ畑等の農地から道路へ赤土等が流出していた。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑪ 前回と比べ変化はなく、路肩崩壊箇所には一部裸地が見られた。








流出防止対策等

(1)農地

- ⑫ 前回と比べ変化はなく、構造物や植栽による赤土等の流出防止対策が施されていた。
- ⑬ 前回と比べ変化はなく、農地に草本によるグリーンベルトが施されていた。

35 源河川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が40mmであったため 降雨時 として調査実施

		
① 河口域の状況 (濁り有り)	① 採水の状況 (濁度0.6(度))	② 東側下流域の状況 (濁り有り)
		
② 採水の状況 (濁度8.8(度))	③ 東側中流域の状況 (濁り有り)	③ 採水の状況 (濁度22.9(度))
		
④ 西側支川下流域の状況 (濁り少)	④ 採水の状況 (濁度1.5(度))	⑤ 西側支川下流域の状況 (濁り少)
		
⑤ 採水の状況 (濁度2.4(度))	⑥ 西側支川中流域の状況 (濁り少)	⑥ 採水の状況 (濁度3.9(度))
		
⑦ 赤土等の流出可能性のある ビニルハウス周辺の状況	⑦ 前回の状況	⑧ サトウキビ畑から道路へ赤 土等の若干の流出状況

35 源河川河口 第2回調査(平成30年12月10日実施)

調査日には降雨量が40mmであったため 降雨時 として調査実施

		
⑧ 前回の状況	⑨ 農地から側溝や道路へ赤土等の若干の流出状況	⑨ 前回の状況
		
⑩ サトウキビ畑から道路へ赤土等の流出状況	⑩ 前回の状況	⑪ 路肩崩壊箇所の状況
		
⑪ 路肩崩壊箇所の状況	⑪ 路肩崩壊箇所の状況	⑪ 前回の状況
		
⑫ 構造物による赤土等の流出防止対策	⑫ 前回の状況	⑬ グリーンベルトによる赤土等流出防止対策
		
⑬ 前回の状況		

39 赤瀬海岸

流域内状況

本流域は、赤瀬海岸から東側に延びる流域であり、沖縄本島中部の恩納村に位置する。

流域内中央付近は、「土地改良総合整備事業」(①)により整備された農地が広がっている。農地では、主にサトウキビが栽培されている。

流域位置図



流域図



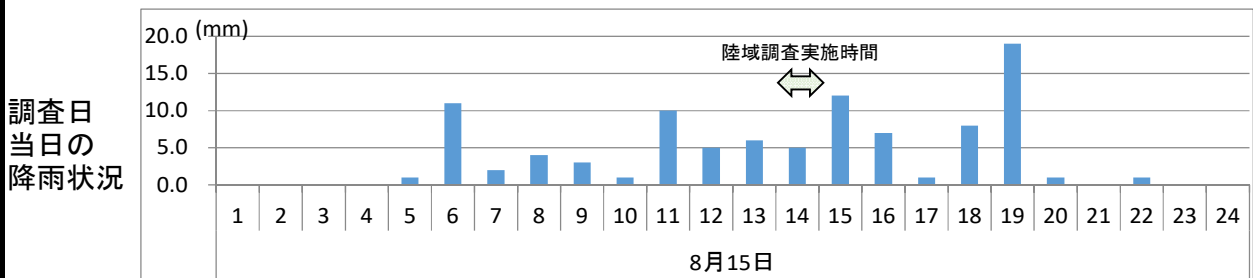
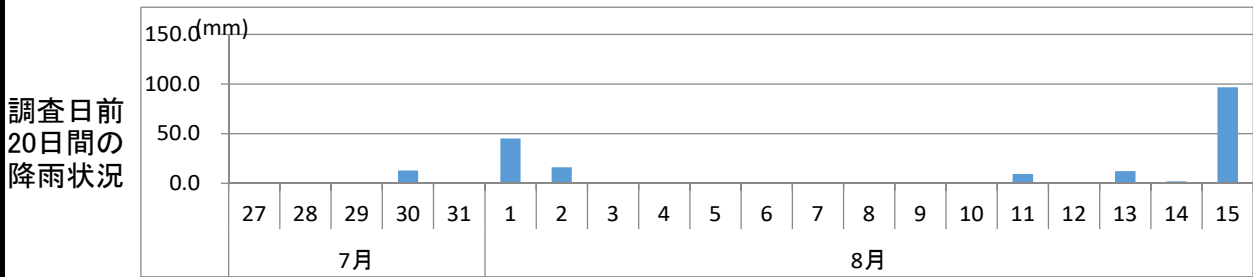
①土地改良総合整備事業

* 衛星写真の撮影日は平成27年1月4日であり、調査時の状況、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

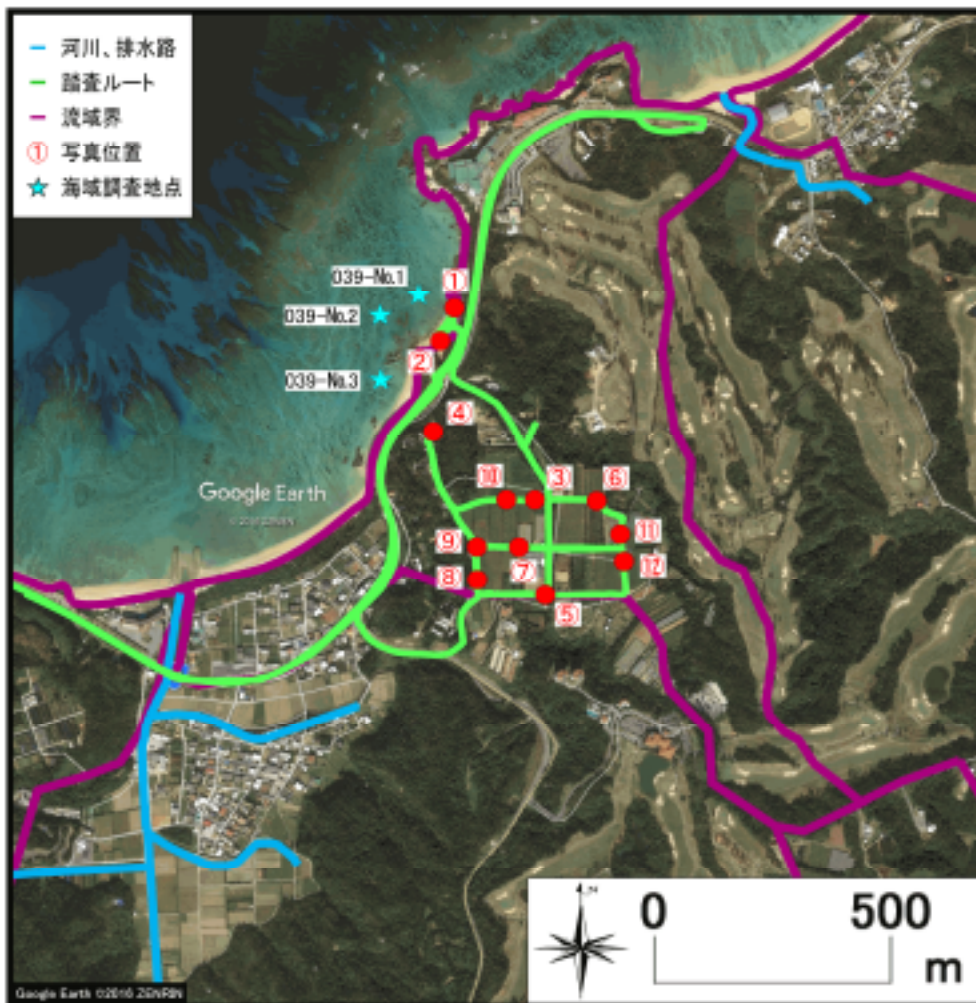
39 赤瀬海岸

第1回調査(平成30年8月15日実施)

降雨状況 喜瀬武原観測所



調査図



* 衛星写真の撮影日は、平成27年1月4日であるため、本調査日平成30年8月15日とは異なり、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

39 赤瀬海岸 第1回調査(平成30年8月15日実施)

調査日には降雨量が97.0mmであったため 降雨時 として調査実施

流出情報等

(1)河口、河川

- ① 北側河口域のカルバートにおいて、濁りが確認され、濁度は37.3(度)であった。
- ② 南側河口域において、濁りが確認され、濁度は59.1(度)であった。河口域の濁りの原因は、この上流側にある地点⑨のような沈砂池、流域内の農地や雑木林等から流出した濁水であると考えられる。

(2)農地

- ③ 流域内中央付近において、サトウキビ畑から側溝や道路へ赤土等の若干の流出が確認された。

(3)その他(造成地や工事など)

- ④ 流域内北側において、盛土等の工事が行われていた。規模は遠いためわからなかったが、周辺で工事看板等の確認は出来ず、裸地が目立っていた。
- ⑤ 流域内南側において、雑木林から側溝や道路へ赤土等の流出が確認された。

流出防止対策等

(1)農地

- ⑥ 流域内東側の農地において、マルチングや構造物による赤土等の流出防止対策が確認された。しかし、直下の水路への流出も確認された。
- ⑦ 流域内中央付近のビニルハウスにおいて、トタン板による赤土等の流出防止対策が確認された。しかし、側溝や道路へ赤土等や濁水の流出も確認された。
- ⑧ 流域内西側のサトウキビ畑において、植栽によるグリーンベルトが確認された。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑨ 流域内西側において、沈砂池が確認された。オーバーフローしており、採水を行ったところ濁度は23.1(度)であった。

過年度確認地点との比較

流出情報等

(1)農地

- ③ 昨年度と比べ変化はなく、サトウキビ畑等の農地からの流出は軽微であった。
- ⑩ 昨年度と比べ、サトウキビ畑から赤土等の流出は確認されなかった。
- ⑪,⑫ 昨年度と比べ、裸地は草本で覆われており、流出は確認されなかった。

(2)その他(造成地や工事など)

- ④ 昨年度と比べ、畜舎は見えなくなり、造成工事が行われていた。裸地が目立つ状況には変化がなかった。
- ⑤ 昨年度と比べ変化はなく、雑木林から側溝や道路へ赤土等が流出していた。

39 赤瀬海岸 第1回調査(平成30年8月15日実施)

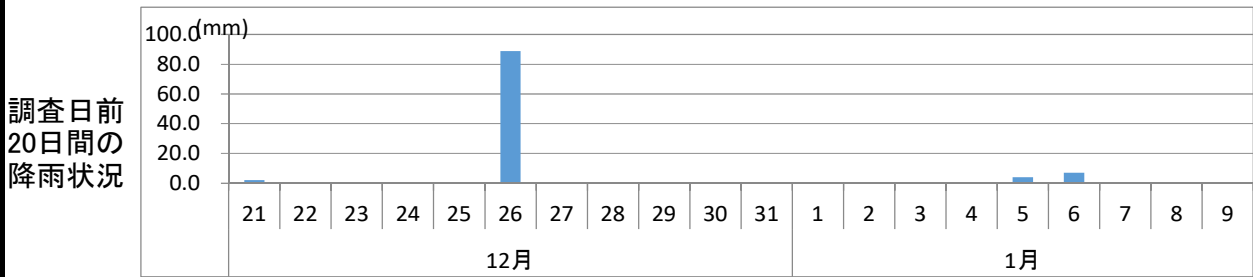
調査日には降雨量が97.0mmであったため 降雨時 として調査実施

		
① 北側河口域の状況 (濁り有り)	① 採水の状況 (濁度37.3(度))	② 南側河口域の状況 (濁り有り)
		
② 採水の状況 (濁度59.1(度))	③ サトウキビ畑から側溝や道路へ赤土等の若干の流出状況	③ 昨年度の状況
		
④ 工事現場の状況	④ 昨年度の状況 (昨年度は畜舎が立地)	⑤ 雑木林から側溝や道路へ赤土等の流出状況
		
⑤ 昨年度の状況	⑥ マルチングや構造物による赤土等の流出防止対策	⑦ トタン板による赤土等の流出防止対策
		
⑧ 植栽によるグリーンベルトの状況	⑨ 沈砂池の状況 (オーバーフロー有り)	⑨ オーバーフロー採水状況 (濁度23.1(度))

39 赤瀬海岸

第2回調査(平成31年1月9日実施)

降雨状況 喜瀬武原観測所



調査日
当日の
降雨状況

当日の降雨は確認されなかった。

調査図



* 衛星写真の撮影日は、平成27年1月4日であるため、本調査日平成31年1月9日とは異なり、特に裸地や造成地の様子を反映していない可能性がある。

39 赤瀬海岸 第2回調査(平成31年1月9日実施)

調査日には降雨量が0 mmであったため 平常時 として調査実施

流出情報等

(1)河口、河川

- ① 北側河口域のカルバートにおいて、濁りは確認されなかった。
- ② 南側河口域において、濁りは確認されず、閉塞した状態であった。

(2)農地

- ③ 流域内中央付近において、農地から側溝や道路へ赤土等の若干の流出痕が確認された。
- ④ 流域内東側において、農地から側溝へ赤土等の流出痕が確認された。側溝内には赤土等が堆積していた。

(3)その他(造成地や工事など)

- ⑤ 流域内北側において、盛土等の工事が行われていた。規模はわからなかったが、工事看板等の確認はされず、裸地が目立ち、一部では雨水による浸食痕が谷底へ続いていたため、流出源となっている可能性がある。
- ⑥ 流域内南側において、雑木林から道路へ赤土等の流出痕が確認された。

流出防止対策等

(1)農地

- ⑦ 流域内東側の農地において、マルチングや構造物による赤土等の流出防止対策が確認された。
- ⑧ 流域内中央付近のビニルハウスにおいて、トタン板による赤土等の流出防止対策が確認された。しかし、側溝や道路へ赤土等の流出痕も確認された。
- ⑨ 流域内西側のサトウキビ畑において、植栽によるグリーンベルトが確認された。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑩ 流域内中央付近において、沈砂池が確認された。オーバーフローはなかった。
- ⑪ 流域内西側において、沈砂池が確認された。オーバーフローはなかった。

第1回確認地点との比較

流出情報等

(1)農地

- ③ 前回と比べ変化はなく、農地からの赤土等の流出は軽微であった。
- ④ 前回と比べ、流出が見られなかった農地において、本調査時には側溝へ赤土等が堆積していた。

(2)その他(造成地や工事など)

- ⑤ 前回と比べ変化はなく、工事が継続しており、裸地が目立っていた。
- ⑥ 前回と比べ、濁水が流出していた箇所に赤土等が堆積していた。

流出防止対策等

(1)農地

- ⑦ 前回と比べ変化はなく、マルチング等の流出防止対策が施されていた。
- ⑧ 前回と比べ変化はなく、トタン板による赤土等の流出防止対策が施されており、また、側溝や道路へ赤土等の流出も確認された。
- ⑨ 前回と比べ変化はなく、農地に植栽によるグリーンベルトが施されていた。

39 赤瀬海岸 第2回調査(平成31年1月9日実施)

調査日には降雨量が 0 mm であったため 平常時 として調査実施

		
① 北側河口域の状況 (濁りなし)	② 南側河口域の状況 (濁りなし)	③ 農地から側溝や道路へ赤土等の流出痕状況
		
③ 前回の状況	④ 農地裸地から側溝や道路へ赤土等の流出痕状況	④ 前回の状況
		
⑤ 工事現場の状況	⑤ 工事現場の状況	⑤ 前回の状況
		
⑥ 雑木林から道路へ赤土等の流出痕状況	⑥ 雑木林から道路へ赤土等の流出痕状況	⑥ 前回の状況
		
⑦ マルチングや構造物による赤土等の流出防止対策	⑦ 前回の状況	⑧ トタン板による赤土等の流出防止対策

